

## 島根原子力発電所 防災訓練実施結果報告書（要旨）

## 1. 対象期間

平成25年4月1日～平成25年9月19日  
(前回報告した対象期間の翌日から総合訓練実施日までの期間)

## 2. 実施した防災訓練の概要

## (1) 総合訓練

全交流電源喪失により原子炉の冷却機能が全て喪失し、原子力災害対策特別措置法第15条該当事象に至る原子力災害を想定した総合訓練を実施した。

- a. 実施年月日  
平成25年9月19日
- b. 参加人数  
202名
- c. 実施内容((a)～(f)を同日に実施)
  - (a) 通報・連絡訓練
  - (b) 緊急時モニタリング訓練
  - (c) 避難誘導訓練
  - (d) 復旧訓練
  - (e) シビアアクシデントマネジメント訓練
  - (f) 電源機能等喪失時対応訓練

## (2) 要素訓練

シビアアクシデント事象(燃料に重大な損傷を与えるような事象)に至る原子力災害を想定した要素訓練を実施した。

- a. 実施年月日  
平成25年4月25日ほか(対象期間内で計16回実施)
- b. 参加人数  
延べ160名
- c. 実施内容((a)～(c)を個別に実施)
  - (a) 緊急時モニタリング訓練
  - (b) シビアアクシデントマネジメント訓練
  - (c) 電源機能等喪失時対応訓練

## 3. 実施した防災訓練の評価

総合訓練については、プラントの被害状況を把握したうえで指揮命令を行い、必要な対応が概ね円滑に実施でき、所要時間など設定した目標についても達成を確認した。なお、緊急時対応を習熟・反復するシナリオ開示訓練としては、訓練方法が確立してきており、今後は訓練負荷をより高めるために、一部シナリオ非開示型の訓練を取り入れることや訓練実施時間帯(夜間や休日等)を考慮することを検討する。

また、要素訓練については、定められた手順どおりに実施できることを確認した。

#### 4. 前回報告で抽出された課題に対する取組み状況

前回報告（平成25年4月24日）で抽出された課題について、改善を行いその有効性を確認した。

前回報告で抽出された課題	今回報告の訓練への反映状況
避難誘導において人員把握に時間を要したため、短時間で人員把握が行えるよう検討する。	今回の訓練では人員把握確認要員を増員して対応した結果、前回よりも短時間で人員把握ができた。さらに迅速な対応ができるよう引続き検討を行う。
緊急時対策所と支援室との情報共有が円滑でなかったため、その改善方法を検討する。	緊急時対策本部の各班長の補佐として連絡補助員を配置させたことで、緊急時対策所と支援室との情報共有をより円滑に行うことができた。
使用可能な通信手段の情報共有が図られていなかったため、その改善方法を検討する。	緊急時対策所内に「通信手段使用可否状況ボード」を掲示し、状況を確認する都度更新を行うことで、情報共有を図ることができた。
高圧発電機車から敷設したケーブルを固縛する際、ロープでは作業効率が悪いいため、その改善方法を検討する。	結束バンドを使用することでスムーズに固縛することができた。

#### 5. 今後に向けた課題

災害対応の実効性をより高めていく観点から、防災訓練の実施毎に課題を抽出し、手順書の継続的な見直しについて検討する。

以下に、抽出された主な課題を示す。

- 全交流電源喪失時に、代替電源への切替えまではFAXが一時的に使用できなくなるため、停電対策（無停電電源装置の設置等）を検討するとともに、本社や東京支社からの通報連絡対応ができるように対応手順の整備について検討する。
- 一部の執務室内では所内放送が聞き取り難い状態であったため、その範囲を調査し、改善内容を検討する。
- 復旧班活動が輻輳した際には、復旧班長はその指揮命令にあたり、補佐役が連絡対応を一人で行わなければならないため、補佐役を増員するなど、状況に応じた対応を検討する。
- 今回の訓練は平日昼間に実施したが、時間帯や被害状況によっては要員が全員揃わない場合も考えられるため、夜間や休日等における実動訓練の実施を検討する。
- 原子炉補機海水ポンプ用の電動機を取替えに際しては、端子箱等の締付ボルトサイズがそれぞれ異なるため、ボルトサイズを一覧表に整理することで作業の円滑化を検討する。
- 夜間訓練を想定し、現場作業合図者は蛍光部のある手袋の着用を検討する。
- シナリオ開示型の訓練としては習熟されているため、次のステップとして、一部シナリオ非開示型の訓練を検討する。

以上